

## 熊本市中部浄化センターA 消化槽建設工事を竣工 (九州地方での下水処理場で鋼板製消化槽が初稼働)

株式会社神鋼環境ソリューション（本社：神戸市中央区、社長：粕谷強）は、2018年3月に熊本市から高度技術提案型総合評価方式による一般競争入札（設計・施工一括発注方式）で受注した「中部浄化センターA 消化槽建設工事（7001 工区）」（以下「本工事」）を本年9月30日に竣工し、10月1日より本格稼働しました。

本工事は、中部浄化センター内（熊本市西区）において、1961年に供用開始されたコンクリート製消化槽の更新施設として、当社が提案した安定した運転実績の多い中温・中濃度方式の鋼板製消化槽を建設しました。

本工事で建設する鋼板製消化槽は、下水処理場向けとしては九州地方では初めての採用であり、当社の技術、実績が評価されたものと認識しております。  
下水汚泥の嫌気性消化は、汚泥減量化を主要な目的として用いられてきましたが、消化の過程で発生する消化ガスはカーボンニュートラルなクリーンエネルギーであり、発電等に有効活用することにより、化石燃料の節減と同時にCO<sub>2</sub>削減に貢献できます。  
また、鋼板製消化槽は従来のコンクリート製消化槽と比べて、建設工期の短縮や事業計画変更への柔軟な対応、運転支援機能による維持管理性の向上が図れるため、ますます需要が高まる技術です。

当社は今後もこれまで培ってきた技術を駆使し、循環型社会の形成や環境保全に貢献してまいります。

### 記

#### 1. 本工事の概要

- ①発注者 熊本市
- ②工事場所 熊本市西区蓮台寺5丁目地内
- ③消化槽容量 3,200m<sup>3</sup>

#### 2. 鋼板製消化槽の特長

嫌気性消化は、微生物による有機物分解により汚泥の減容化を図るとともに、約60%のメタンを含んだ消化ガスを得ることが可能なエネルギー回収技術です。

弊社の鋼板製消化槽は、国土交通省・平成23年度下水道革新的技術実証事業（B-DASHプロジェクト）、鋼板製消化タンク技術マニュアル（公益財団法人日本下水道新技術機構様編集）をはじめとした複数の公的機関から評価いただいた技術であり、下記の特長を有しております。

- ①センサー類を駆使した運転状況可視化や、弊社独自の堆積物低減技術などの運転支援機能により、適切な消化反応を維持
- ②20年以上の耐用年数
- ③低動力攪拌機の採用により、維持管理コストを縮減可能



鋼板製消化槽の外観

以上

[本件に関する問い合わせ先]

◆株式会社神鋼環境ソリューション 総務部

TEL：078-232-8018 FAX：078-232-8051

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1丁目4番78号